

## 福井・留学応援フェスタ

### 海外留学・駐在体験発表

#### 座談会内容

(橋本) では、これから留学・駐在体験発表に移らせていただきたいと思います。まず、これから発表していただく学生の方から簡単にご紹介させていただきます。こちらが福井大学工学研究科博士前期課程情報メディア工学専攻1年 鵜飼利明さんです。鵜飼さんは平成23年5月から平成24年3月までアメリカのフェアレイ・ディキンソン大学に留学されていました。続きまして、こちらの方が福井県立大学経済学部経済学科4年生の西佑美子さんです。西さんは平成23年6月から平成24年3月まで韓国の延世大学に留学されていました。今日はよろしくお願ひします。座談会形式ということで、司会は福井県アジア人材基金事務局の橋本が務めさせていただきます。

では、わたしからいろいろ質問をさせていただきますので、それに関してお答えしていただきたいと思います。

それでは、鵜飼さん、西さんに自己紹介も兼ねまして長期留学されていた概要について伺いたしたいと思います。

(鵜飼) こんにちは。先ほどご紹介いただいた福井大学大学院工学研究科情報メディア工学専攻1年鵜飼と申します。私は、2011年5月から2012年3月までの約10ヶ月間、アメリカのフェアレイ・ディキンソン大学というところに語学研修に行ってきました。なぜその大学に行ったのかということですが、アメリカといってもいろいろな大学があると思うのですが、私は東海岸に行きたいと思っていて、語学学校が大学内にある、オンキャンパスという体系をとっているところに行きたいと思っていて、立地条件もあまり誘惑がないところで、少しカントリーの雰囲気があるところを探していて、フェアレイ・ディキンソン大学というところを選びました。

留学に行く前の夏にインドの方に一人で旅に出まして、そのときが初めての海外だったのですが、世界は広いなということを感じまして、もっともっといろいろな世界を見たいと、いろいろな人に触れてコミュニケーションをとって、いろいろなものを見たいと思って、就活はしていたのですが、就職はしないでそのまま一年間アメリカで留学するという経緯に至りました。

(西) 福井県立大学経済学部経済学科4年生の西佑美子と申します。私は平成23年6月から平成24年3月まで韓国に留学に行き参りました。現在4年生なんですけれども、一年間学校を休学して韓国に留学いたしました。私がなぜ、韓国語を勉強しようと思ったかというと、私が高校生のとき世間は冬ソナブームで私の母も

そのうちの一人で、毎日韓国ドラマを見ていまして、韓国はなぜ、おば様を引きつけるのだろうと感じたところから韓国に興味を持ち始めまして、この大学に入って韓国語を勉強し始めたところ、すごくおもしろくて勉強もしやすかったので、もう少しがんばって一生懸命勉強したらぺらぺらになれるのではないかという思いがあって勉強し始め、留学もしました。

私がなぜ延世大学の語学施設に留学をしようと思ったかという、延世大学は私立の大学なんです、その中の語学堂というのが韓国でも一番歴史のある語学学校ということで信頼のある学校だということ母が勧めてくれました。すごく大きい語学学校なんです、冬ソナブームのころが一番多く、今はだんだん減少傾向にあるようですが、最近では日本人より中国人の留学生のほうが多いということです。

(橋本) ありがとうございます。確認ですが、鶴飼さん、西さん共に私費留学ということですね。

(鶴飼) はい。

(西) はい。

(橋本) お二人とも理由は違いますが、海外で学びたいという強い意志があって自ら留学するという道を選んだんですが、留学の中身について具体的にお聞かせいただきたいと思います。

次は、外国語の習得方法、学習方法について伺いたいと思います。先ほど石川様の講演の中にも語学についてのお話もありました。アメリカ、韓国それぞれ異なりますが英語や韓国語を習得されるために、どのような姿勢で臨まれたのか、現地でどのような工夫をされたのか教えていただきたいと思います。鶴飼さんからお願いします。

(鶴飼) 学習方法ですが、特別なことはなくただ実直にやるしかないという感じでした。最初のころ留学したときは、TOEICが630点で留学したのですが、ファーストフード店、マクドナルドなど行って簡単な注文をしても何を言っているか全然分からなくて、授業のレベルでも最初配属されたときは中のAくらいだったのですが、先生の言っていることが全然わからなくて本当に悔しい思いをしたので、そこからは授業でリーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの基本的なことを勉強していたので、授業が終わった後、先生に直接尋ねてこの発音がわからないから教えてくれ、というのをしました。そのとき先生から嫌な顔をされましたが、知りたいから教えてくれというふうに言いました。あとは、大学の寮に住んでいたのですが、寮に住んでいる現地の学生と交流しながら話して学んだり、ジムにも通ってスポーツをきっかけに話したりしていました。学習方法としては、学校で基礎的なことを勉強して毎日出る宿題をこなしてプラスαで先生のところに聞きに行ったり、いろいろな人と交流したりしていました。

- (西) 私も鶴飼さんと同じようにしていたのですが、一番大事だと感じたことは、宿題をきちんとなすことで、最低限のことをしっかりやることで韓国語を基礎から身につけていくことができたと思います。家に帰ったら、宿題プラス予習もしていました。住んでいる下宿の人達と交流したり、日韓交流会というのが週に一回あり、カフェで日本人と韓国人が雑談したりゲームをしたりして交流したりする会に参加もしました。もう一つ語学の勉強に役にたったのが、アルバイトなんですけど、韓国にミョンドンという有名な観光地があるんですが、そこに日本人向けのマッサージ店がありまして、受付のアルバイトをしていました。その従業員のほとんどが韓国語しかわからない方なので、お客さんが来られたときにお客さんと店員さんと通訳をしたりだとか、韓国語で来る予約の受付などもしました。教科書や実際友達と話しているときには学べないような韓国の言葉なんかも学ぶことができましたので、アルバイトというのも語学を勉強する上で貴重な経験になりました。
- (橋本) ありがとうございます。先ほど石川様のお話の中で語学は必要に迫られればやるという話もありましたが、このご意見に対してお二人は実際留学してみようですか。どう感じますか。
- (鶴飼) 私は、英語だけをメインにして留学するのもいいと思うのですが、石川様がおっしゃったように英語を使って大学の学部の勉強をしたほうが確実に伸びると思います。言い切れると思います。
- (西) 私もそのとおりだと思います。必要に迫られれば、自分がどれだけ語学ができない状況でも現地に放り出されれば、語学というものはついてくるものではないかと思います。
- (橋本) ありがとうございます。留学中かなり語学力が高まったと思いますが、その力をさらに伸ばす、維持するために今語学に関して取り組まれていることはあるのですか。
- (鶴飼) 私の場合は、英語のクラブに行ったり、日ごろからリスニングに力を入れてまして、留学する前は、邦楽ばかり聞いていたのですが、帰ってきてからは洋楽に切り替えたり、オーディオブックという小説の英語版を毎日聞いてリスニングを絶やさないようには自分でしていました。
- (西) 私は、韓国人の留学生が県立大学にはいますので、その子たちと交流をしたり、家では韓国ドラマを見たり、最近では、卒論でいろいろな資料を見る機会が多いので、文献で韓国語の資料を読んだりして語学力をキープするようにしています。
- (橋本) お二人の帰国後にされている語学学習の方法などは福井に住んでいてもできることだと思います。語学は使わないことには語学力は高まらないと思いますので参考になるのではないかと思います。
- それでは、次の質問に入らせていただきたいと思います。文化や環境など異な

る海外での生活のなかでは様々な苦労があると思います。こういった苦労話、現地でのトラブル、驚いたことなど記憶に残っているエピソードがあれば紹介していただきたいと思います。石川様にもお話していただきたいと思いますのでよろしくおねがいします。

- (西) 現地での苦労話なんですけれども、留学生の方が今日何人かいらしている日本で生活していると日本人の性格がよく理解できなかつたりだとか、文化も理解できないとかあると思うのですが、意思疎通できなかつたりしたことがあったかもしれないのですが、私も韓国に留学中そのようなことがありました。先ほどアルバイトの話ですが、韓国人の性格は感情の起伏が激しく、日本人はどちらかというと感情を抑えるようなところがあると思うのですが、韓国人は怒るときはすごく怒る、泣くときはすごく泣く、やさしいときはやさしいし、愛情表現もすごい、という感じでした。アルバイトをしているとき、ちょっとしたミスで社長に怒られました。普通だったら、次からはこのようなミスしないようにと言われるものだと思っていたら、すごい罵声を浴びせられて、おまえバカなんじゃないか、頭悪いのではないかということをよく言われました。すごく怖かったですし、なんでそこまで怒るのかと思い、その日家に帰ってすごく泣きました。でも、韓国人は起伏が激しいので、怒ったら10分くらいしたらけろっとして機嫌が直っているという感じでそれに慣れるのに時間がかかりました。仕事をしていく上で国民性を理解するということの中で苦労しました。

- (鵜飼) 私が思ったのは文化の違いです。向こうは大量消費するだとか、衛生、不衛生さだったり、レストランのサービスの悪さだったり、日本だとサービスがよいのが普通だと思っていたのですが、向こうだとそのようなことはなく、それでもチップ15パーセントは払わないといけなかつたりしたことです。

また、公共交通機関のシステムがすごく悪かったです。バスだと予定の時間に来なかつたり、10分遅れてきたり20分遅れてきたりするの普通でした。予定の5分前にバスが到着したら、誰もいないから行ってしまったり、日本だと予定の時刻まで待って出発するんですがそのようなことがありました。20分くらい待つこともありましたし、どうせ遅れるからと1、2分遅れていったら、実はすでに5分前にいってしまっていたということがありました。公共交通機関の不便さがありました。

また、インフラ、地域の格差がありました。台風が来たときがありまして、私たちの地域は台風が来たときにすべて停電してしまいまして、寮もすべて停電してやることもなにもなくなり、隣町は電気がついていたのでそこで飲んで明かそうということもありました。台風の次に大雪が降ったことがありまして、雪で寮の電気がすべてストップして、水は出るがガスが出ないので温水も出ず、真っ暗だということで、寮に住んでいる全員で大きな体育館に集まって一夜を明かすと

ということがありました。私たちの地域は停電してて、隣町は電気がついているというのはどうしてかという、隣の地域は企業の駐在さんが住んでいるところで少し裕福なところで、私たちの地域は、あまりリッチではない人が住むところだったので、裕福かどうかで地域によってインフラに差があるのが変だと思いました。日本だとインフラなんかどこも同じだと思うのですが、アメリカだと地域によって偏りがあるんだと思いました。

(石川) いくつもありましたけれども、驚いて逆にほほえましくなったようなこともあります。福井でいうとエルパのようなデパートが9時に終わるとすると、9時というのは従業員の方も撤収する時間なんです。サッカーのスパイクがどうしても欲しくて、終わる20分前くらいに行ったときに、本当にイライラしながらサイズを出されて、脅し、嫌がらせではないが9時に出ないと締められるぞと言われ、店員さんと一緒に走って裏口から出たりしました。

あちらでは、お手伝いさんというか家の掃除や洗濯をしてくれる掃除のおばさんのような方がいまして、会社で一つのアパートに、一人一部屋とって来て生活をしているのですけれども、週に二回その人がきて、簡単な掃除と簡単な洗濯をしてくれる人がいるんです。ぽつぽつとうわさで部屋の洗剤がなくなっている、シャンプーが少ないという話を聞いてはいたんですが、私の同僚がある事情で部屋にパスポートをとりにお昼家に帰ったら、その方がお風呂に入られてて、お風呂に勝手に入るなどと言ってきたという話があり、文化の違いで済ましていいのかわかりませんが、いろんなことが起こっていろんなことを受け入れる能力が勝手に身に付くような環境ではありました。

(橋本) ありがとうございます。実体験に基づいたわかりやすいお話で大変興味深く聞かせていただきました。日本では当たり前のことでも海外では当たり前ではないとよく言われますが、まさにぴったりのお話だったと思います。

それでは、まだまだお話を聞きたいとは思いますが、お時間の都合上、次を最後の質問とさせていただきます。

海外での留学体験、駐在経験を踏まえて、鶴飼さん、西さん、石川さんそれぞれどのような成果が得られたか、今日お集まりのみなさんも聞きたがっていることと思います。そして、もう一つ、日本人の学生さんで将来留学をしたいと志している方もいると思いますので、海外への留学を呼びかけるメッセージなどありましたらお願いします。

(西) 成果ですけれども、もちろん語学の能力が上がったというまでもないということで、日常会話のレベルはできるようになりまして、ビジネスは少し手前くらい、ビジネスの場面で韓国語を使ったことがないのでなんともいえないのですが、スコアも大分上がりました。

私が一番大きく成果を得たものとしては、先ほど石川さんの話の中でもありま

したが、ニュースなどの影響で悪いイメージを持つてしまうことがあるというお話がありましたが、実は私もあまりアジアの国、中国や韓国に対して留学する前までいいイメージがなかったんです。領土問題、歴史認識とかでデモの映像が流れてしまうと、韓国人って日本人のことが嫌いなんだなと思ってしまっていた部分がありました。でも、実際留学してみると、日本人だからといって不当な扱いを受けたことがなかったし、学校で同じクラスだった中国人の子と遊ぶとすごくおもしろくて楽しい子でしたし、一番仲のよかった台湾の子も、私が台湾に遊びに行くことになったときは、台湾を案内してくれたり、今までは、この国の人だから好きではないという感じで、国で人の好き嫌いを判断していたという愚かなことだったんですけれども、その人がどこの国の人であるかという以前に、一人の人なんだというところにすごく目が行くようになりました。そのように考えるようになってからは、中国、台湾、韓国、カザフスタン、ドイツなどいろいろな国の友達ができるようになりました。

これから海外への留学を考えている人はたくさんいると思うんですが、現地での出会いを楽しみにしてほしいなと思います。

(鵜飼) 成果ですが、いくつかありまして、一点目に英語力があります。帰国して TOEIC を受けていく前と比べて 230 点上がりました。リスニングは満点でそういう意味では英語力は確実にあがりました。次にメンタル面ですが、かなり鍛えられました。寮で二人部屋で住んでいたのですが、寮の設備が悪くて、監獄みたいな寮で壁も真っ白でペンキを塗りたくったような感じで、窓もすごく小さく、狭苦しいところに二人で住んでいました。トイレも共同ですが、自分が食べるときに飲む水もトイレの前にある水道から出すような感じで少し気分が悪かったんですが、そのようなところでずっと過ごしてきました。いろいろな人と触れ合うことでいろいろな価値観にも触れ、そのような面でメンタルは鍛えられました。

また、経験するということは自分の中の成果として、最後語学学校を卒業してから一ヶ月間アメリカを東海岸から西海岸へ横断したのですが、その旅の中でいろいろな人と触れ合うことができ、いろいろな価値観の人に出会い、自分が今まで狭い世界の中に存在していたんだと分かるくらい本当にいろいろな価値観の人と出会うので、自分と比較して自分と何が違うのだろう、この人は何を考えているのだろう、自分はどういうふうに行動すべきなんだろうと比較して考えることによって、これからの自分の将来はどうしていいか、指針になったのが、成果だと思っています。

私は留学は強く勧めます。英語力もそうですが、「経験」これは日本の英会話学校にただけでは得られないような経験が得られると思います。いろいろな価値観を持つ人がいて、現地に住んでみないと分からないことがいっぱいあります。テレビやインターネットなどいろいろな情報があふれていて、その情報は選べれ

ているものだけが流れているので、それが本当の情報かといえばそうではなくて、フィルターがかかった情報なので、このようなことは現地に行って自分が経験しないとわからないことなので、海外に行くといろいろな世界に触れることができるので海外留学をお勧めします。

(石川) お二人と同じようなことになりましたが、得られたものは、そういうことを知ったということで、それがいいというわけではないですが、ニュースを見たときに自分が行ったことのある国のニュースと行ったことのない国のニュースを見たときに感じ方が全然違うと思います。東京行ったことのある人がディズニーランドのニュースを見たときに、あそこに〇〇ができたのかと思うのと、行ったことがない人が、よくわからないけどできたんだと思うのと違うんです。私はこの町に生まれてこの町で過ごすというのも人それぞれの価値観なのでいいのですが、自分はそうとも思わず、外にでようとも思わず、会社に入ってこのような環境におかれて、広がるんだと感じた。西さんがおっしゃっていたように、一歩外に出ればそのような知り合いが出来て、莫大に広がっていくと思います。人生のネットワークというか、海外に多少なりとも友人と呼べる人がいます。それが望む人、望まない人いろいろいると思いますが、いけばそうなると思います。多くのことがある人生の中で、それを知って生きるのか知らずに生きるのかというところで自分は知ったほうがいろいろなことはあるでしょうが、幅が広い人生になるのではないかと感じていますので、みなさんはそれを早く知ったらいいなと思いますので、こういうチャンスを活かされたいのではないかと思います。

(橋本) 西さんに一つ質問ですが、一年間休んで留学したということですが、西さんは今4年生ということで就職活動をされたと伺っています。今、長期の留学が増えない理由に4年間で大学を卒業できないことを嫌がる学生もいると聞いていますが、就職活動をしてみて、自分の経験から、そのような意見に対してどのようにお感じですか。

(西) 私は就職活動を終えて、県内の企業に内定をいただいているのですが、就職活動をしていて、私が一年休学して留学をしていたということが不利になったということはほとんどありませんでした。今内定をいただいた会社の前にもう一つ内定をいただいていた県外の会社があるのですが、そこでは入社するのが130人くらいで、半分以上は一年間留学、提携校に留学されていた人だったと思います。会社によっては自分の留学経験が有利になって内定を採るチャンスになるというところもあると思いますが、中には留学していたという経験を必要としない会社もあるので、そのようなところで留学経験をアピールするとマイナスにはならないけれども、うちみたいな海外と関わりのない会社に本当に入りたいと思ってくれているのかなと思うかもしれないです。だから自分が就職活動を今後していく上で、この会社では留学経験をアピールしても本当に有利になるかよく考えて

すれば、就職活動もうまくいくのではないかと思います。

(橋本) 自分自身にとっては、一年間の留学は価値のあるものだったということですね。

(西) はい、そうです。

(橋本) これで、質問事項は終わりです。ここで、せっかくですので、質問あれば受付たいと思いますので、質問のある方は手を挙げてください。この後、鵜飼さん、西さん、石川さんに交歓会に参加していただきますので、そのときにざっくばらんにお話していただいてもよろしいかと思います。

(山本) それでは、今後の時間もございますのでこの辺で座談会、体験発表を終わらせていただきたいと思います。鵜飼さん、西さん、石川さんありがとうございました。みなさん今一度拍手をお願いします。

(座談会出席者)

石川 英之 様     セーレン株式会社研究開発センター  
商品開発第一グループ 車輻資材先行開発チーム 主任

[駐在先・期間]

世聯汽車内飾(蘇州)有限公司  
平成20年12月～平成23年6月

鵜飼 利明 様     福井大学工学研究科 博士前期課程 情報メディア工学専攻 1年

[留学先・期間]

フェアレイ・ディキンソン大学(アメリカ)  
平成23年5月～平成24年3月

西 佑美子 様     福井県立大学経済学部経済学科 4年

[留学先・期間]

延世大学 韓国語学堂(韓国)  
平成23年6月～平成24年3月

(司会、進行)

公益財団法人 福井県アジア人材基金事務局     山本源宏、橋本知弥